



明徳元年(1390)に創建され、元中7年(1390)に再建されている。三間社流造り、柿葺で、素木造り。本殿と棟札7枚が国の文化財にしていされている。

宮地鎮座の荒城神社は、延喜式神名帳にある飛騨国八社の一つである。祭神は天之水分(あめのみくまり)神(のかみ)・国之水分(くにのみくまり)神(のかみ)であるが、大荒木命を祀ったとの説もある。俗に荒城宮または河泊(かはく)大明神と呼ばれている。つまり川の神、水の神として地域の信仰をあつめてきた。

本殿は、明徳元年(1390)再建されたと伝えられている。その後、数度の修理をしたが、昭和7年の大修理を経て面目を一新した。三間社流造、柿葺(こけらぶき)、棟は箱棟とし妻飾冢叉首式(つまかざりいのかさすしき)、軒は二軒(ふたのき)繁(しげ)垂木(たるき)で母屋は円柱の上に雄健な舟(ふな)肘(ひじ)木(き)をおく。向拝の柱は方柱で9分の1の大面取り、この上に唐様(からよう)三斗(みつと)をおく。両端の木鼻の上には天竺様の皿斗(さらと)をつけた斗(ます)もみえる。

また向拝正面中央を飾る墓(かえる)股(また)は、肩の巻込みの眼が痕跡だけとなり、しかも両肩に大きな耳をつけたものは室町期のものであるが、内側の繰抜きは宝珠を中心に若葉を相称形にした古い形式のものである。棟札には、延宝6年午ノ3月吉日、再建立寛政4壬子載小春如意珠日など7枚がある。

参考文献『高山市史・建造物編』



0001_境内



0002_境内



0003_境内



0004_境内



0005_境内



0006_境内



0007_境内



0008_境内



0009_境内



0010_境内



0011_境内入口



0012_境内入口



0013_境内入口



0014_境内入口



0015_忠魂社



0016_忠魂社



0017_忠魂社



0018_拝殿



0019_拝殿



0020_拝殿



0021_拝殿



0022_拝殿



0023_拝殿



0024_拝殿



0025_拝殿



0026_拝殿



0027_撮影風景



0028_看板・石碑



0029_看板・石碑



0030_看板・石碑



0031_看板・石碑



0032_看板・石碑



0033_看板・石碑



0034_看板・石碑



0035_看板・石碑



0036_看板・石碑



0037_石柱



0038_石柱



0039_石柱



0040_社殿



0041_社殿



0042_社殿



0043_社殿